

本書の特徴

中国全土の出土壁画を初めて体系化

発掘調査によって明らかになった重要な墳墓・地下宮殿壁画の写真・模写を、既に現物が失われたものも含め、地域別に体系化、2100点以上をオールカラーにて収録した。さらに出土地域、制作年代、壁画のサイズや方位、発掘年、保存状況についてのキャプションと、画題に関する詳細な解説を付し、墳墓の建築構造を含めた総合的な把握を可能にした。

さまざまな視覚資料を提供

描かれているのは、皇室・貴族・庶民の生活・服装・儀礼の様子、天界の神話・伝説などの言い伝え、山脈・河川・自然景観・動物・花・鳥・虫・魚など多岐にわたり、中国の社会や文化さらには農業・医学・建築・服飾・食品などの諸研究に参照すべき圧倒的な視覚資料を提供する。

日本や朝鮮との比較研究に有用

中国だけでなく、日本や朝鮮など東アジア諸地域の考古学・歴史学・人類学・社会学・思想史・神話学・文学・美術史・建築史などとの比較研究にも広く活用されうる。

充実の別巻

別巻には各巻概説、監修者による解説(日本語版オリジナル)、画題別索引(日本語版オリジナル)を完備。

本書をおすすめします

- 中国、日本や朝鮮など東アジア諸地域における歴史学、考古学、美術史学、宗教学、思想史学、神話学、文学、博物学、建築史学、人類学、社会学などの研究者。
- 大学図書館、都道府県立図書館、市立図書館
- 文化財研究所、埋蔵文化財センター、博物館、美術館 など

A4変型判/上製函入/各巻平均240ページ/オールカラー

第Ⅰ期 2012年1月発売予定(全5巻:第1巻～第5巻、分売不可)

定価:本体120,000円+税 ISBN:978-4-336-05434-0

第Ⅱ期 2012年4月発売予定(全5巻:第6巻～第10巻+別巻1、分売不可)

定価:本体130,000円+税 ISBN:978-4-336-05435-7

発行:科学出版社東京 発売:国書刊行会

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL03-5970-7421 FAX03-5970-7427
http://www.kokusho.co.jp e-mail:sales@kokusho.co.jp

●取扱店

◆申込書 ご記入後、お近くの書店へお持ちください。

『中国出土壁画全集』第1期 本体120,000円+税 セット

『中国出土壁画全集』第2期 本体130,000円+税 セット

お名前

ご住所

お電話

中国出土壁画全集

中国全土から出土した
重要な壁画を初めて体系化
東アジア全域の美術・歴史・思想
などの諸研究に
圧倒的な視覚資料を提供する
決定版画集!

図版総数二千百点余(オールカラー)

+ 詳細なキャプション・画題解説

+ 日本語版オリジナル論文を収録した別冊

中国出土壁画全集(日本語版)

総顧問 ▼ 宿白(北京大学考古文博院教授)

総監修 ▼ 徐光冀(元中国社会科学院考古研究所常务副所长)

監修・翻訳(日本語版) ▼ 古田真一(帝塚山学院大学教授)

〈全十巻〉別巻一

発行 科学出版社東京 発売 国書刊行会

〈白虎及び人物図、第2巻山西上〉

1972年3月の奈良県高松塚古墳の壁画発見以来、日本の考古学・古代史・美術史などの研究分野では、東アジアとくに古代中国や朝鮮半島北部の古墳壁画との関連性が注目され、詳細な比較検証が要請されるようになった。

日中間に平和が訪れた1945年8月以降、中国各地で重要な壁画発見が相次ぎ、中国政府の積極的な古墳壁画の保存措置が講じられるようになった。例えば陝西省乾県にある唐代永泰公主墓の壁画は87・5mの墓室内に6組の儀仗隊と各種の器物を奉持する侍女群が描かれている。また乾陵に陪葬された懿徳太子墓では、全長100m余の墓室内に太子の儀仗隊・馬車列と多数の侍女群が描かれ、墓室上部には日月・銀河・星宿までがみごとに描写されている。これらの壁画実物は、陝西省博物館の地下壁画保存室で、最良の保存環境のもとで完璧に保存されている。

いま永泰公主墓の壁画を実見し細部にわたり研究しようとすれば、陝西省博物館に向き指定日時限定時間に許可を受けて見学する方法しかない。壁画表現の詳細、例えば表情・化粧・結髪・服装の細部、携行品から建物構造など多岐におよぶ研究分野の詳細な比較研究を望むとすれば、二、三回の実見で済むものではない。研究に対応できるような詳細な視覚資料が必要なのは言うまでもない。

壁画に表現された当時の社会生活全般、農業・医学・建築・自然環境にいたるまでを網羅した本書は、今後の日本考古学・美術史研究にとっても掛替えのない貴重な視覚資料となることは疑いなく、多くの研究者をはじめ、大学図書館、博物館、研究施設などでの活用を期待し推薦する次第である。



きんず
112. 寄錦図

宝山村2号墓・石室内南壁
遼(916~1125年)
高228cm 幅336cm
方位:ほぼ東向き(95°)
1994年内モンゴル自治区赤峰市
アルホルテン
阿魯科沁旗東沙布日台郷宝山村
出土
現地保存

画面に幅の広い茶褐色の外枠を設け、画中に7人の人物を配する。中央の女性は貴婦人で、周囲に5人の侍女と1人の書生が控えるが、侍女は貴婦人と同様の髪型と装束に描かれており、背後に芭蕉、翠柏、竹林が配される。左上角の赤黄色の枠内には、墨書による「□□征遼歲月深、蘇娘憔悴(悴) □難任、丁寧織寄廻(文)(錦)、表妾平生縫縫心」の題詩が記されている。

適宜、部分図を掲載



きんず
113. 寄錦図(部分1)
宝山村2号墓・石室内南壁
遼(916~1125年)
人物:高約160cm
方位:ほぼ東向き(95°)
1994年内モンゴル自治区赤峰市阿魯科沁旗東沙布日台郷宝山村出土
現地保存

本図は、寄錦図に描かれた貴婦人であり、髪を髻形の髮髻に結い、髪に挿した金簪には金環が配られている。そして長い袖の裾の裏には、刺繍が施された綿の手袖を着て、文様のある赤い襦袢を着、赤い帯を締め、白い短靴(履)を履き、赤い袴(袴)を着る。さらに、刺繍のある地の履(シューズ)を履き、赤い襪を履く。右足を前に出し、右手で前方を指差しし、儀仗隊や侍女に指示を出す。

組見本●実寸
第3巻内モンゴルより

専門の研究者といえども
目にしたことのない資料群

京大名誉教授
曾布川寛

中国では、1949年の解放以来、考古学的発掘が全国的に大規模に行われ、めざましい成果をあげている。これらの発掘の大部分は墳墓であり、とりわけ漢代以後、中央の貴族や地方の豪族たちによって築かれた豪華な地下の墓室は、彩色豊かな壁画で一面におおわれていた。あの世で死後の生活を営む墓主たちの世界を描き、現実の世界を色濃く反映した宴飲、楽舞、車馬行列などの生活の光景はもちろん、神々、鬼神たちが織りなす神話、孝子伝の伝説などが視覚的に鮮やかに表現されている。

本書はこの墳墓から出土した壁画を専門的に扱う。従来これらの壁画は総合的な美術全集において、主に長安を中心とした地域の唐代の壁画のみがもっぱら紹介されてきたきらいがあったけれども、このシリーズは分類別美術全集として、ターゲットを墳墓壁画にのみ定める。その結果、範囲を全国に広げて各地域の壁画が平等に扱われ、時代も秦漢から元代まで漏れなく取り上げられている。どの墳墓の壁画も全容がわかるようにできる限り多く掲載されており、専門の研究者といえども、これまで目にしたことのない作品が目白押しである。この膨大な量の壁画画像は、美術史、考古学の重要資料であるのみならず、中国の歴史、宗教、文化などの資料として極めて有益であると考えられる。



114

【監修者略歴】

◆徐光冀 (じょ・こうき)
1935年北京生まれ。北京大学歴史学部考古学専攻卒業後、中国科学院考古研究所研究員として勤務、今日に至る。現職は中国国家文物局専門家、中国考古学会常務理事、中国古遺跡保護協会顧問など。
著書：『赤峰葉王廟、夏家店遺跡試掘報告』、『大甸子—夏家店下層文化居住地と墓地発掘報告』、『磁器湾漳北朝壁画墓』、『魏晋南北朝文化』など。近年は『三峡プロジェクト文化財保護(事業)の成果及び基本経験』、『南水北調中線プロジェクト文化財保護の段階成果』などを発表している。

◆古田真一 (ふるた・しんいち)
1954年、愛知県名古屋生まれ。帝塚山学院大学教授。京都市立芸術大学美術専攻科修了。1986年から1990年まで北京大学に公費留学。
専攻：中国絵画史 著書：『中国の美術—見かた・考えかた』(昭和堂)、『世界美術大全集 東洋編3 三国・南北朝』(小学館) 訳書：『中国古代の服飾研究』(京都書院) 論文：『六朝絵画に関する一考察—司馬金龍墓出土の漆画屏風をめぐる』(『美学』168)、『宋代における仕女図の表現形成について』(『中国美術の図像学』京都大学人文科学研究所) など。

〈監修にあたって〉

帝塚山学院大学教授 古田真一

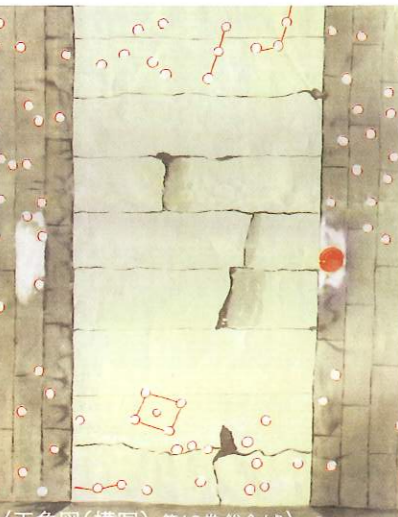
本書は、日中で同時出版される『中国出土壁画全集』全10巻の日本語版である。中国では、五千年以上も前の紅山文化に属する遺跡から彩色壁画の残片が発見されていることから分かるように、古くから宮殿や墳墓を壁画で飾る伝統が保持され、これまでに各地で大量の壁画が発見されている。そうした壁画の中から、本書では秦漢から元代の出土壁画を中心に採録し、巻によっては明清時期のものも含んでおり、二千年以上の長きに及ぶ時期の壁画を体系的に紹介している。

本書を通観して驚くことは、何と言っても収録された壁画の多さと、内容の豊富さであろう。20世紀初頭から2009年までに発掘された約350カ所の遺跡が取り上げられ、全10巻に収録された全国各地の壁画の総数は2100以上に及んでいる。壁画には当時の人々の生活や儀礼の様子が生き生きと描かれ、神話や故事などが壁画として視覚的に表現されているが、それらを通して中国の社会や文化を総合的に理解できることは言うまでもない。また日本の古墳壁画との関係も深く、高松塚古墳に描かれた女性の服装や、キトラ古墳の四神の源流を考える上でも重要であり、さらに茶に親しむ場面や種々の吉祥文は日本文化との類似性が認められ非常に興味深い。

唐代以前の絵画作例のうち、敦煌などの石窟壁画を除けば、現存する絵画の大部分は墳墓に描かれた壁画であり、しかも石窟壁画が宗教的な画題にほぼ限定されているのとは異なり、墳墓壁画では内容が多岐に及んでいる。さらに、遼代や金代の絵画作例が乏しい現在、墳墓壁画はこの時代の絵画を補完する上で極めて重要であると言える。そうした遼金時代の壁画が多数収録されていることも本書の特徴であり、最新の発掘成果を余すことなく盛り込んだ本書が、東アジアの文化に関する様々な研究の場で広く活用されることを期待したい。

劉明達克子圖 第1巻 河北

建築図 第4巻 山東より



天象図(模写) 第10巻 総合より

〈全巻の内容〉

第一巻	河北
第二巻	山西
第三巻	内モンゴル
第四巻	山東
第五巻	河南
第六巻	陝西(上)
第七巻	陝西(下)
第八巻	東北
第九巻	甘肅・寧夏・新疆
第十巻	総合

別巻 各巻概説

索引 日本語版オリジナル論文

●科学出版社について
中国科学技術の最高諮問機関である中国科学院(英文名:The Chinese Academy of Sciences)の管轄する科学技術系出版社。考古学、科学、技術、医学、教育関連の図書を中心に、毎年新刊書3000余点、定期刊行物200種を刊行する、中国を代表する学術出版社の一つである。

『中国出土壁画全集』は中日共同出版です。中英語版は科学出版社、日本語版は科学出版社東京が発行。国書刊行会が発売元となります。